

小木の子 われら

校区内
全戸回覧

令和7年10月6日発行

誰にでも起こる！ ブレイクスルー！

～「続けるために私たち大人ができること」の巻～

校長 本間 智英

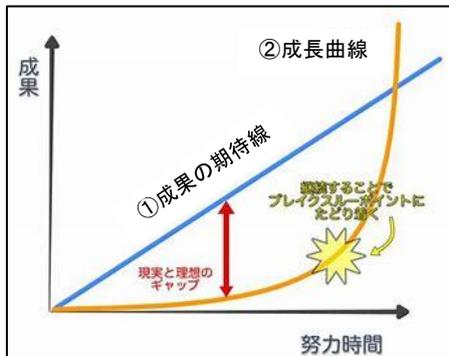
8月・9月の生活目標は、「あいさつやへんじをしっかりとしよう」でした。朝、総務委員が児童玄関に立ち、登校する子どもたちと元気にあいさつを交わしていました。また、登校班の中には、信号機の前で立っている私を見付けると、100mも先からあいさつをしてくれる班がありました。

子どもたちのあいさつの声を聞くと、元気が出ますね。



児童朝会の総務委員会から

さて、2日（木）に行われたマラソン大会に向け、子どもたちは、体育や昼休みのマラソンチャレンジタイムをつかって練習を重ねてきました。きっと、練習の成果を発揮し、めあてを達成できたことでしょう。



私（たち）は、努力をすれば、左図の「①成長の期待線」のように右肩上がりに成果が表れることを期待しますが、このような右肩上がりの直線になることはあまりありません。「②成長曲線」のように初めは成果が表れないことが多いです。そのため、努力することを諦めてしまう場合もあります。ここで諦めず、努力を続けると、突然、図のように急カーブを描くとき

（ブレイクスルーポイント）が訪れ、一気に努力の成果が表れる（ブレイクスルー）ときがやってきます。

しかし、このブレイクスルーポイントがあと何日すれば訪れるのか、見通しをもてれば努力が続けられますが、それは誰にもわからないことです。なぜなら、人それぞれ「努力のつぼ」の大きさが違うからです（学校だより第2号 参照）。

では、私たち大人は、子どもが努力を続けるために何ができるでしょうか。私は次のように考えています。

- ・子どもが頑張っていることを褒める、認める（結果より過程の重視）
- ・子どもの気付かない小さな変化、成長を伝える（頑張りの細かな目盛りの設定）
- ・頑張ればできた経験を積ませる（小さな成功体験の蓄積）

2学期末、子どもたちの成長した姿が今から楽しみです！